

教育長だより No. 29

2022年3月11日

「えっ！ そんな異動って」

～ 私の異動経験から ～

学年末を控え、教職員のみなさんにとっては人事異動の季節がやってきました。私は、大阪の中学校を振り出しに定年退職まで実に9回の転勤を経験しました。おかげでいろいろな人との出会いや多様な経験をしました。中でも驚きの体験が2つあります。紹介します。

1. わずか2年での異動

内示の日（以前は、ずっと学年末の修了式の日午後でした。）、私は大阪から近江八幡市の八幡東中へ転勤してまだ2年目だったので、いわゆる「異動の対象外」でした。修了式の午後は部活（ソフトテニス）を入れてたんです。子どもがケガをしたのでお医者さんに連れて行ってました。3時過ぎに学校に戻ると、同僚の先生から「校長先生があんたを探してたで。」とのこと。私、「何やる？」と思いながら校長室に行くと、「悪いなあ。転勤してもらうことになったんや。」と校長先生。「えっ！」と私はびっくり。「校長先生、ぼくまだここ（八東中）に来て2年ですよ。そんな異動ってあるんですか！？」と聞き返しました。校長先生は申し訳けなさそうに「すまんなあ。まあ、教育委員会いうても、おんなじ校区内の集会所やから、しょっちゅう学校には来てもらわらんし、・・・。」と続けました。

ここで教育委員会への異動はいわゆる「5年10年」（当時）という基本の例外であることを知りました。

2. 二枚替え（校長・教頭の同時異動）

もう一つ思い出深いのは、校長と教頭が同時に異動になったという経験です。

私は市教委（近江八幡市）の課長補佐から八幡中学校の教頭として異動して1年が終わろうとしていました。そして、校長先生は定年退職。ですから、教頭の私の異動なんて「あるはずもない。」と思っていました。ところが、です。またしても異動でした。それまでの同和教育指導課が大きく改変され、人権教育課が発足するのに合わせて私をその課長へとのことでした。私は八中在籍がたった1年でしたが、あとの学校が心配でした。だって、学校のことを少なくとも「よく知っている管理職」が二人とも替わるんですから。そんな話を校長先生としていると、「教頭先生、わしらはいつ異動を言われてもええように備えとかなあかんのやで。『管理職は1年1年が勝負』なんや。よう覚えときや。」と言われました。

次の一年を考えることは大切です。でも、それ以上に「今」を精一杯がんばることも。